

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

人間の威厳

プロ・ライフ・ムーブメントとカトリック教会

プロ・ライフ運動の将来はカトリック教会にかかっている。これを知らば、5千万以上の胎児が無慈悲に殺されている根底にある事実を理解し始める。又、これを信じれば、

今世紀を歴史上最も殺人的傾向のある世紀にしてしまった流れを止める希望が見いだせる。

キリスト教精神がなければ、私達は人間の生命の神聖さを本当に理解出来なかつただろう。西暦80年にはすでに、キリスト教の文書である、十二使徒の教訓で次のように説いている。「妊娠中絶をしてはいけません。まだ産まれていない人間の生命を破壊してはいけません。」二千年の間カトリック教会はこの教えを守ってきた教会は私達に人間の生命は人

類の貴重な所有物であるのみならず、神に属する神聖なものであると説いてきた。従って、プロ・ライフ運動に関わってきた人々は人間の生命の神聖さを擁護する。

人間の生命は神聖である。なぜなら、神は御自分にかたどったものとして知性で知覚する才能、自由に選択する意志、互いに愛しあうことなどの神御自身の能力を受け継がせるために人間を創造したからである。人間の生命が宿る度に神は直ちに人間の魂を創られたのである。それは次の人生において神と人が一つになり、共に住むためであった。

私達は胎児の生きる権利や自由の権利、そして幸福を追及する権利を正しい意見として話してきた。

しかし、ここで強調したいのは妊娠中絶は神の権利にそむくということだ。人間の生命は受胎の瞬間から神聖であるから、それは神に属している。この神聖な人間の生命を守らない事は結果的に神の権利へのうらぎりとなる。従って、妊娠中絶は人間の威厳に対する侮辱であるだけではなく、神への罪でもあるのだ。

ノボトニー・ジェリー

omi

支援望む

ぜひとも胎児への積神的支えを！

中絶は神と生命に対する冒瀆です。母体の子宮内で中絶の危機にさらされている胎児を心から受け入れる事が出来ますか？もし可能なら、ぜひとも一年間は小さな生命のために祈って下さい。あなたの支援する胎児が無事に誕生する事を、そして両親や社会に祝福される事を祈り続けましょう。

日々の祈りは

次のように

イエス様、あなたを愛情を持ってはぐくまれた聖母マリアとあなたを信仰を持って守った聖ヨゼフの力によって、私は中絶の脅威にさらされている無

数の胎児のうち一人を支援し祈ります。出産までその子の両親を、神の恩寵と力によりお守り下さい。アーメン。

「今世では、あなたが支援した子と出会う事はないかもしれませんが、来世において、その子の幸福の恩恵を受ける事でしょう。」

母の日に

捧げる言葉

息子ジェフリーは、これ以上ない犠牲をはらって自分を産んでくれた母親に「お母さん、ぼくのためがありがとつ」と言葉をかける事すら出来ない。

私達は学校卒業後結婚し、彼女はカウンセラーの仕事をしていました。妊娠が分かった時二人とも大喜びで、一日も早く二世の顔を見たくて仕方がなかった。一週間後、望まぬ妊娠にうろたえる少女達の相談が集中し、妻の職場がとても忙しくなり、妻は少女も胎児の命も大切だとろくに食事もとらず対応したという。

その夜遅くなつて妻は痛みを訴え、大事な子を流産してしまいました。私は妻の心痛を思いやるしか

なすすべがなかった。でも試験にあつても私達は神への信仰だけは持ち続けました。その後、妻はヒューマン・ライフ・サービス機関でボランティヤとしてカウンセリングの仕事が続けたいと言つ。私も賛成した。念願の会報編集もやらせてもらえ、文章で読者をひきつけるという、大学での妻の専攻をいさせるやりがいのある仕事だ。

一九八七年六月初旬、妻は再び妊娠し、わが家は喜びに包まれ、新しい家族を迎えるためのさまざま準備を進めていました。その後、妻は咳をしはじめましたが、もともと、丈夫な方ではないので、あまりお互い気にも止めませんでした。私達は咳がひどくなつたのは、きつとアレルギーが原因だろうと、床・壁・天井など部屋じゅうのほこりを掃除機で吸い取った。

だが咳はいっこうにおさまらず、やむを得ず妻は仕事を辞めて、実家で静養する事にしました。帰った直後、のどが圧迫されて咳が止まらなくなり、直ちに病院へ連れて行かれた。私は病状を知らされて、すぐさま病院へ向かうと、医師から「奥さんはガンと思われます」と告げられた。妻も私も、ショックや信じられないという気持ちで駆け巡るなか、診断に聞き入った。同時に私達は神のみもとにいるという安心感も抱いていた。

精密検査の結果やはりガンと分かり、腫瘍を研究している医師はガン治療のためには中絶しか方法がないのですぐに手術を受けるようにとすすめましたが、妻は「いいえ」と心を変えなかつた。「中絶しないと科学療法が行えません。ガン細胞を治療できないとしたら、後はもう放射線療法しかありません」

「んね。」それをお願い致します。赤ちゃんに害がなければ結構です。」

しばらくの間は放射線療法を続けたが、結局やめて、妻と子どもを命を祈つて暮らすため、家に連れ帰った。予想通り、ガンは進行していった。妻は片時も聖書を手放さず、神様がこの子を救ってくれるはずよ」と言い続けた。小さな命を自力で世に送り出すという妻の決意に賛同したものの、ガンが彼女の体と気力を蝕んで行くのを見るのは辛かつた。

九月から十一月にかけて神の言葉を頼りに平穏な日々を過ごしたが、十二月十一日の夜、激しい痛みに襲われ、急いで病院へ運び込んだ。翌日の夜、呼吸困難におちいり、同時に出血も始まった。

私も病室から締め出されてしまい、中でどんな事が起こっているのか把握出来なかつた。だけど妻は

がとう」と言つたろう。

ダウ・ブレアー

(1993-AAI)

死ぬだろつという予感がした。医師も看護婦も母子両方の命を守ろうと懸命だ。しばらくして、小さな赤ん坊を抱えて急ぎ足で廊下に行く医師の姿が見えました。

私は再び病室に通され、妻の亡骸と対面する事になった。「ダウさん、来てご覧になって。男のお子さんですよ。」看護婦が優しい声をかけてくれ、新生児室に案内してもらった。初めて見る息子、ジェフリー・アランの小さな姿を飽きるほど眺めた。

「触つても平気よ」とそばにいた人に言われ、そつと手を近づける。生きている！ジェフリーは確かに生きている。神が最後に奇跡をもたらしてくれたのだ。

私もジェフリーもいつか妻、ロレインと同じ運命をたどる。天国で息子はやつと母に巡り合い、「お母さん、ぼくのためにあり

教会が応える時がきた

プロ・ライフ運動はもう20年にわたって、中絶廃止を訴えている。出版物、雑誌投稿、政界や法廷での主張などをはじめ、胎児を擁護する数々の活動によって成果をあげてきた。胎児達の生命を救い、人々の心に訴えかけ、多くの賛同者を得て運動の輪を広げている。

しかし残念な事に、一つだけ失敗を認めざるをえない点がある。教会どうしが一致団結して罪（中絶）を非難していないのだ。罪の重さを強調し、クリスマスチャンとして歩む道は中絶を認可する社会とは比べものにならないほど素晴らしいと説くべきなのに。教会が本気を出してプロ・ライフ運動を大衆に問いかけたなら、中絶が合法か否か疑問視される事も

なかつただらう。

しかし、一般大衆とは接触せず、見事なまでに距離をおきながらも、福音を通じて闇なる中絶の世界に光をもたらす努力をしてきた例として、ヴァージニア州フレデリックスバーグのセント・メアリ・カトリック教会が最近出した教区新聞の一節を引用したい。

胎児の人権を守り、社会の関心を高めるためには、もう政治にばかり頼ってはいられません。私達が行動するのは、私達の手でキリストの精神を広めていかねばなりません、中絶手術を減らすのが不可能ならば、中絶を受ける人を減らすよりほかにないのです。望まぬ妊娠で困難に直面している可愛そうな

少女や女性が中絶に走らないように手を貸しましょう。必要ならば、どんな手助けや援助も厭いません。

* 妊娠中の住まいが必要
な人には家を探して提供する。

* 世間体や非難におびえている人には愛情と理解を示す。

* 子供を自分で育てたい
人の相談にのる。

* 子供を養子に出したい
人には手続き上の手助けをする。

* 出産費用に困っている
人に金銭的援助を。

* 中絶後遺症で悩んでいる
場合も相談に応じる。

最後に、皆さんの祈りとプロ・ライフ運動へのご協力を心からお願ひ申し上げます。若者が世間に惑わされず、キリスト教的より良い生き方に目を向けるよう、心の指針を示してあ

げましよう。

身近に妊娠で困っている人がいたら、昼夜を問わずお電話を下さい。援助を必要としている女性を受け入れて下さる暖かい家庭からのご連絡もお待ちしております。皆様の祈りとご支援に感謝を込めて。

バックナー神父

同様の見解を示す聖職者はたくさんいる。セント・メアリス教会だけが例外ではない。もし、世界中の教会が一斉に唱えたら、その効果は計り知れないだろう。

ステイブ・ダンハム

本

出雲井晶 著

「1994年2月25日

初版発行」

「おれは胎児は受胎の瞬間から完全な人権がある事を、心の底でちゃんと知っている。それに、一ヶ月の生存不可能な状態では2パーセントか3パーセントの人権しかないのだと自分の良心をくらましている。法律では妊娠六ヶ月までは中絶して良い事になっている。だから、はぎとられた優性保護法の指定医も、取り戻さなければと、裁判にも訴えた。しかしそれで妊娠中絶をしていたのでは、自分は未来永劫救われないう事ではないか！優性保護法の指定医などもうどうでもよい。実子特例法制定にむけてだけ励むことだ」(本文より)

自分が中絶しなくても他の医師がするだろうという最初の思い上がった気持ちの頃…、人工妊娠中絶資格をはぎとられる事は金銭的には苦しい立場となるし、又産科医として信用もなくなる事だと考えた頃…、そして最後にはその様な資格などどうでも良いと考えるまでに淨化され、マザー・テレサについて二番目に与えられた「世界生命賞」を授与されるに至った三十三年間の産婦人科医としての仕事を通して人工中絶と向かい合った故菊田昇医師の心の奇跡。御一読をおすすめいたします。

(日本プロ・ライフ・

ムーブメント)

『コンドーム配布?』

今日、国民はエイズの大惨事に注目している。日々この恐ろしい病気で息子や娘、兄弟や姉妹、隣人や友達を失い続けている。

個人を荒廃して、命を終わらせるエイズの陰惨な進み方は、感染した人や感染の危機にある人、また社会全体にも、深い同情を起こさせるもので、我々は健康で、道徳的価値観のある社会の回復に直接的な対応をするよう強く要求している。

今日、ニューヨーク市の公立高校では、生徒の希望に応じて無料でコンドームを配っている。その州の他の学区でも同じ様な計画が考えられている。薬局や雑貨屋でコンドームは「セーフ・セックス」であるとの妄想を宣伝している。

道徳の先導者として、公立学校でのコンドームの配布に異議を唱える。コンドームの配布はエイズ危機に対するあまりにも無責任な教育方針である。この方法は、若者の人間としての尊厳を尊重しておらず、生命を生み出す能力である人間の性能力の価値を下げることになっている。また同時に、自分の子供を指導し育て上げる親の第一の権利をひそかに傷つけることにもなっている。

1 コンドームは
答えではない

若者へのコンドーム配布は、道徳的・実際の両面から、エイズに対する正しい解決策ではないと確

信している。これは、問題に対する社会の立てたその場しのぎの解決策の一例にすぎない。若者たちに性能力の問題点を理解させる手助けをするには、我々はもっと深い視野を持ち、精一杯頑張り、正しいメッセージを伝えなくてはならない。その正しいメッセージとは、性能力は美しく、力強く、神聖で良いものであるということである。それは神からの贈り物であり、責任を持って、道徳的に使うべきものなのである。

青春期の不安定さと肉体的な成熟の時期、そして様々な疑問の生じてくる時期に、明確な指導と強い指示を与えなくてはならない。希望と信念と自己価値と自重を伝えなければならぬのである。我々は若者たちの尊敬を信じている。

適切な指導と、親としての深いかわり合い、およ

び自尊心を深める意味で考えられたプログラムをもつてすれば、健康な性態度と性的禁欲を助長させる価値観とを調和させた人生をおくるようにとのメッセージに、若者たちが応えてくれると信じている。

2 道徳的な面

性能力は神からの贈り物である。性交とは二人の結婚した人間の最も親密で美しい愛の行為である。想像して見よう！その愛がすばらしく大きく力強い二人の人間が一緒になれ、その肉体的、感情的な愛の結合が、新たな人間を作り出す力を持っているのである。

我々は子供たちにこのような行為を崇拜し、畏敬の念を起こさせるように教えなくてはならない。性交は夫妻間の全ての誓約

を写し出す行為で、全く無私無欲な絶対的な愛であり、互いに愛する結婚した者たちによって共有される忠誠と受理と誓約および親密の印である。

二人の人間の間で交わされる肉体的な生殖活動によって起こる感情的な結合についてはコンドーム配布を薦めている人たちにあまりよくは理解されていまいだろ。十代で、結婚していないのに性交渉を持ち、感情的な結合を感じる場合、その一時的で誓約のない関係が終わりを迎える時に深く傷ついてしまうことがよくある。自分の全てを相手に捧げた後に、その相手の新しい「パートナー」のために捨てられた場合、むなしさや失意や罪の意識を感じるのには珍しいことではない。

青春期に非常に急激な感情的、肉体的、社会的、心理学的および精神的な

成長を経験する。若者たちの要求や不安、願望や疑問に対しての解決策として、性的な活動を奨励してしまつ事があるが、子供たちは早すぎる性的な活動による精神的外傷に備えられていない。一時的な結婚前のセックスはセックスの価値を下げてしまふ。愛と誓約と尊重を伴う、責任ある有意義なセックスという、より良い道があるのだということに若者たちは耳を傾ける必要がある。

3・実際の面

コンドームが、エイズなどの恐ろしい病気や妊娠の確実な防御手段ではない証拠を幾つか挙げよう。コンドームの避妊失敗率は概算で10から32%である。エイズウイルスに対するコンドームの有効性に関する研究は比較的新しいものであるが、それでも

失敗率は最低でも17%であるといっている。死ぬ確率が17%のキャンデーを与えることを想像できるであろうか？あるいは17%の確率で故障を起こす自動車を買ってあげることを想像できるであろうか？

「タバコを吸わなくてはならないのだ」たらこれを使いなさい。害は軽減されるから」と言つてフィルターの付いているタバコを渡しはしないだろ。同様に、コンドームで、いわゆる「セーフ・セックス」をするようにと言つてはならないのである。我々は子ども達にこう言わなくてはならない。「セックスは結婚した人々への神からの贈り物です。待ちなさい。私たちはこの生命を生み出すすばらしい行為を死と破壊の行為に変えて欲しくはないのです。あなた一人しかいないから

とても大事なんだ。未来はあなたを待っているのです」。

コンドームの失敗で妊娠する場合、女性の月経周期の間の受精期間(周期の約30%)においてのみ、男性から女性へと伝わるある特定の流体を通して起こる。しかし、エイズの感染は男性・女性双方からの様々な流体の伝達によって起こり、また特定の期間には限られていない。百分の期間、百分致命的なのである。このことを憶えておくことはとても重要であり、またこのことを伝えることもとても重要である。

コンドームはよく駄目になったり、破けたり、ずれたり、輸送や取り扱いの途中で傷が付いたりする。また、ひび割れや乾燥、弾力や収縮力の低下などを起こす極端な寒暖の環境にさらされることもある。

4 コンドームに

代わる手段

本来の学校の役割である、生きてゆくための基礎知識と技術を伝える」ということを学校が進めていくことがきわめて重要である。学校は、責任ある考え方や生活をする習慣や、規律と道徳の価値観を教えることで、エイズ危機を軽減させる手助けができる。また、有意義な職業訓練、運動や創造的な活動に関わりを持たせるように若者たちを励ますことができる。

5 親の権威と

家族のまとまり

今日の社会の中で成長してゆく青春期の若者たちのための規範は家庭で設定され、さらに学校が補

助する形になるべきである。親たちは常に子供の第一の教師となり、成長と発達を管理し、教え込みたい価値観を子供たちに徐々に教え込む権利と責任がある。

若者たちに、自尊心のある道徳的な生活をおくらせ、尊厳や肉体や心を傷つけないような全ての道徳的な害悪に対して「NO」と言えるように導き、また、どれくらい子供のことを思っているかを子供たちに見せ、テレビを消して子供たちと有意義な時間を過ごすことを親たちはすべきである。そして、家族はとても重要な価値のあるものである、ということ

を自らの行動で示していただきたい。

さらに若者たちに、新たな頂点へと奮い立たせ、彼らになり得る最上のものになるように強く要求することをその親や保護者や教師たちに望む。また、

献身的、道徳的、貞節な人間として若者たちを先導することを我々は望んでいる。

結論

我々は死を招く病気と直面している。今は雄弁な言い訳をしている場合ではない。楽な道を選んでいる場合でもない。真実を語るべき時なのである。

我々は政策の立案や教育に携わるプログラムの履行に携わる人たち、および医療の分野に携わる人たちに、コンドーム配布という、その場しのぎの解決策を阻止し、若者たちに健康なライフスタイルとしての性的な禁欲を勧めることに全ての力をそそぎ込んで頂きたい。

親や保護者、教師やカウンセラー、広告業者や教育と医療機関に関わりを持つ全ての人たちに我々は要

求する。声高らかに、明確に、絶え間なく真実を語る事を。若者たちがちゃんと生きていけるように。

ニューヨーク州

司教団の声明